

※こぼれ話

柘みみはなのどクリニックをはじめ全4院を運営する医療法人・ぶてい・らばん（愛知県大府市）では採用だけではなく、人材育成にも力を入れています。入社直後だけではなく、定期的に接遇やマナー研修を受けるほか、外部講師による研修も推奨。休日に研修を受けた場合は代休を消化できます。

また、月に1度、内藤孝司理事長が「柘ドラッカー塾」を開催。スタッフ全員がクリニックの掲げる使命を共有できるような勉強会として、ドラッカーの『5つの質問』に対する答えをディスカッションしながら掘り下げたり、ワークシートに書きこみながら考察する研修を行っています。

ユニークなのは、海外企業の経営を手本にした「パディシステム」です。スタッフを2人1組のペアにして、仕事で困っていることや不安なことなどを定期的に相談し合ったり、話し合えたりするしくみをシステム化しています。リラックスして話し合えるよう、院外のカフェやレストランで軽食をとりながら話し合ってもよく、飲食費は経費として認められています。パディのペアは部署や役職、勤続年数に関係なく生まれ、一定期間ごとにペアが変わるため、いろいろな人と接点を持つことができ、多様な価値観に触れることもできるのもメリットのひとつです。

「ワン・オン・ワン・ミーティング」といって、部下から直属のリーダーへ、直属のリーダーから部下に1対1のミーティングをリクエストして、相互に仕事を教えたり、情報交換をしたりすることを推奨する取り組みも行っています。

また、クリニックのブログやInstagramなどを更新して経営に貢献したり、本を読んで読書感想文を書いたりするとポイントがもらえます。ポイントをためておくと、毎年4月に有給チケット（有給休暇がもらえるチケット）やディズニーランドのペアチケット、コーヒーショップの回数券などと交換することができます。

スタッフが自主的に仕事に取り組める環境が整い、人間関係もスムーズになるような条件が整っているといえます。

（ウェブ記事で使用する写真、0013_171127）
クリニック2階には「柘文庫」と呼ばれる本棚があり、仕事や研修の参考になる本が並んでいる



（ウェブ記事で使用する写真、0012_171127）
「柘ドラッカー塾」で使用するワークシート

